

コンゴ民主共和国

主要データ

国名〔英名〕	コンゴ民主共和国〔Democratic Republic of the Congo〕
面積(km ²)	2,344,858
海岸線延長(km)	37
人口(百万人)	73.6
人口密度(人/km ²)	31.4
GDP(百万 US\$)	17,305
一人当り GDP(US\$)	232
主要鉱産物：鉱石	銅、コバルト、タンタル、タングステン
主要鉱産物：地金	銅、コバルト
鉱業管轄官庁	鉱山省
鉱業関連政府機関	鉱業登録所(Mining Registry)
鉱業法	鉱業法(Mining Code(2002))
ロイヤルティ	鉱業法(Mining Code(2002))
外資法	外国投資法(Foreign Investment Code(2002))
環境規制法（環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等）	鉱業権申請時の環境影響評価、環境管理計画の実施・策定義務あり。
鉱業公社	Gecamines、Miba、Sakima、Okimo、Sodimico、Kisenge Manganese
鉱業活動中の民間企業	FQM 社、Anvil Mining、Rio Tinto、Vale 等
近年の鉱業関連問題（資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等）	外資企業との間で鉱業ライセンスの見直し交渉は、主な鉱山では妥結又は他の企業への譲渡等により問題が解決している。カビラ大統領再選後、政府は鉱業法の改正を検討中。
2011 年のトピックス	・ 2011 年 9 月、Ruashi 銅鉱山を有する Metorex 社は、中国金川集団(Jinchuan)からの買収オファー(12.8 億 US\$)を承認。 ・ 2011 年 9 月、五鉱資源有限公司(Minmetal Resources Ltd.)は、Kinsevere 銅鉱山等を有する Anvil Mining Ltd. を買収。 ・ 2011 年 11 月、国連安保理、DRC コンゴに対する制裁措置延長を決定 ・ 2011 年 12 月、カビラ大統領再選。

1. 鉱業一般概況

コンゴ民主共和国(以下「DRC コンゴ」)は、銅、コバルト、ダイヤモンド等を産出するアフリカ有数の資源国である。現在の国名となった翌年の 1998 年に政府と反政府勢力との対立に周辺諸国が介入して紛争が勃発し、300 万人以上の一般市民が犠牲となるとともに、多数の難民が発生し最貧国となった。2002 年に和平合意(プレトリア合意)が結ばれ、2003 年 6 月に暫定政権が発足したものの、武装集団の活動は続き、同国東部地域の情勢が急速に悪化したことから、国連安保理は 2003 年 7 月、東部に存在する武装集団への武器禁輸措置等に関する決議を採択した。

国民議会選挙が 2006 年 7 月に、大統領選挙が 10 月にそれぞれ実施され、ジョセフ・カビラ氏が当選、同年 12 月に正式に大統領に就任した。2007 年後半まで、資源価格の高騰を背景に、中国を含む外資参入により、探鉱開発活動は活発化し、生産も大きく伸びた。

カビラ政権の統治は依然として地方には十分に行き届いていない面もあり、選挙結果に不満を持っ

た対抗勢力等と政府との紛争が一時激化した。その後、2008 年 11 月にオバサンジョ元ナイジェリア大統領の仲裁の下、国際社会の介入や反政府勢力内の内部抗争等を経て、2009 年 1 月の停戦宣言により、内戦は終結した。しかし、その後も DRC コンゴ領内でのルワンダ軍によるルワンダ反政府武装集団の掃討作戦が継続する等、この地域の治安情勢は依然として安定していない。同国政府は反政府武装勢力による鉱物の密輸を阻止するための対策を講じてきたが、2011 年 12 月末に発表された国連の専門家レポートによると、同国東部において状況の深刻化が見られるなど、解決すべき課題が残っていることから、前述の国連の安保理決議は 2012 年 11 月までさらに措置が強化・延長されている。

こうした中、2011 年 11 月に大統領選があり、暴力行為が見られるなど選挙の有効性が争点となったが、2011 年 12 月最高裁の決定によりジョセフ・カビラ大統領の再選が決定した。

その後、3 月に辞職した Muzito 前首相の後任として Ponyo 前財務大臣が 2012 年 4 月 18 日付けで首相に任命され、Kabwelulu 鉱山大臣は留任することとなった。Kabwelulu 大臣の留任が決まったことで、鉱業法改正や鉱業省改革が今後加速される可能性があると言われている。

一方、2007 年から始まった鉱業ライセンスの見直し(詳細後述)により、DRC コンゴの資源ポテンシャルにもかかわらず、外資の投資意欲は減退傾向にあると言われてきた。具体的には、鉱業ライセンスの見直しの結果、Kingamyambo Musoni Tailing プロジェクトでは、鉱業権を没収された First Quantum Minerals Ltd. がその正当性をめぐる国際調停の申請中に、DRC コンゴ政府が ENRC (LSE 上場)の鉱業権の取得を認めたことから、国際的な司法紛争に発展した。

2010~2011 年には、多くのライセンス交渉が妥結したことから、徐々に外資の JV 参入などの動きも出てきており、Rio Tinto 等が鉄鉱石等の JV 探鉱プロジェクトに参画を始めている。一方、Anvil Mining 社が自社の権益を Minmental Resources (中国五鉱資源有限公司)に売却を決めるなど、西側企業が撤退し、中国・カザフスタン等の資本の大型参入も目立ってきている。

2010 年 7 月 21 日、米国金融規制改革法 (Dodd-Frank 法、Dodd-Frank Wall Street Reform and Consumer Protection Act of 2010: H. R. 4173) がオバマ大統領の署名により成立し、DRC コンゴを原産とする「紛争鉱物(タンタル鉱石、錫鉱石、金、タングステン鉱石とこれらの派生物)」の利用及び取引に米国証券取引委員会 (SEC) への報告義務が課されることとなった。同法成立の背景には、DRC コンゴ産の紛争鉱物の利用及び取引は、同国東部における深刻な暴力、特に性的暴行やジェンダーに基づく暴力を伴う紛争や武装集団の活動の資金源となっているとの懸念がある。同法は 2011 年中に施行予定であったが、米国証券取引委員会が策定中の実施規則の公表は延期され続けており、施行期日を 1 年以上経過しても未だに明らかにされていない。

なお、DRC コンゴ政府は、上記が米国金融規制改革法について、中央アフリカ諸国に対する事実上の禁輸措置とならないよう、国連や OECD が定めたデューデリジェンスのガイダンスに準拠するべきであるとのレターを、Kabwelulu 鉱山大臣の名義で米国証券取引委員会宛てに送付している。

2. 鉱業政策の主な動き

2010 年は制度面の変更はないが、以下のような制度運用が企業活動に影響を及ぼしている。

(1) 鉱業ライセンスの見直し

2007 年 5 月から、政府は内戦前後の混乱期に締結された Gecamines 等国営企業と外国企業との鉱業協定(契約)について、これらの中には合法的でないもの、あるいは休止状態のものも含まれているとし、協定の無効化も含めた整理のための見直しを行っている。

2008 年 3 月に公表された政府の委員会による見直しの結果では、61 の既存の契約の見直し(契約の修正、再交渉、場合によっては破棄)が必要と結論付けられ、今後、政府は国内の鉱業が国益にかなうよう効率的な運営と適切なコントロールを行うとした。

2008 年以降、こうした既存の鉱業ライセンス契約の見直しによりライセンスの没収などが相次ぎ、各社が交渉を行い、以下のような結果となっている。

①First Quantum Mineral 社関係

First Quantum Mineral 社(FQM 社、本社：加・バンクーバー)は、DRC コンゴで成功していた数少ない西側企業の一つ。同国における最大の納税者、主要雇用主であったと言われている。自ら3億US\$を投じて開発したFrontier 銅・コバルト鉱山(年産銅9.2万t)を操業し、2006年には、Kolwezi プロジェクトの廃さい採掘許可所有権(65%)を有する Adastra Minerals(英)の買収に7.5億US\$(権益65%)を投資していた。

・Kolwezi 銅・コバルト開発プロジェクト

2009年8月、FQM 社が同国 Katanga 州で開発中であった Kolwezi 銅・コバルト開発プロジェクト(尾鉱から銅・コバルトを回収)について、同国政府がライセンス契約の解除を通告し、同年9月には、警察が事業所を閉鎖するなどし、鉱業権を剥奪した。FQM 社が本件について国際調停を申し出ていたにもかかわらず、2010年8月、DRC コンゴ政府はKolwezi 銅プロジェクトをENRC(本社：Kazakhstan、London 上場)の子会社にライセンスを付与した。

・Frontier 銅鉱山及び Lonshi 銅鉱山

Frontier 銅鉱山及び Lonshi 銅鉱山については、2010年8月、鉱山登記所からFQM 社に対して開発ライセンスを無効とする旨の通知が出され、2010年9月には、両鉱山の運営を承継するべく、Sodimico 社(国営鉱山会社)及び Fortune 社(香港ベース)のJV会社、Sodifor 社が設立された。これらのライセンス承継の有効性をめぐり、国際調停手続きや英国領バージニア諸島でのENRC子会社を相手取った賠償訴訟等が起こったが、2012年1月5日、ENRC 社がFQM 社に総額12.5億US\$を支払う代わりに、FQM 社はKolwezi 銅プロジェクトに加えて Frontier 銅鉱山及び Lonshi 銅鉱山を含むDRC コンゴ国内における同社の全てのプロジェクトをENRC 社に譲渡することで合意した。

②Freeport McMoRan Copper & Gold 社関係

・Tenke 銅鉱山(交渉妥結)

Freeport McMoRan Copper & Gold 社(FCX 社、本社：米)等が開発中であった Tenke 銅鉱山(年産銅7万t)の鉱業ライセンスについて、FCX 社等から更新申請があったものの、DRC コンゴ政府は更新を認めず、2009年10月の更新期限以降も両者間でライセンス交渉が継続していた(交渉中も生産は継続)。更新期限から1年後の2010年10月、FCX 社は、DRC コンゴ政府との同鉱山の鉱業ライセンスの更新手続きが完了したと発表した。

最終的には、同国の鉱業法の規定に従い所得税率30%、ロイヤルティ2%、輸出税1%を支払うこととともに、権益保有率の変更としてGecamines 社(国営鉱業公社)の権益を17.5%から20%に、追加のロイヤルティとして銅の確認埋蔵量が2.5百万tを超えた場合には、10万t毎に120万US\$を支払うこと等が盛り込まれた。

③その他

上記以外では、Anvil Mining 社(豪：Dikulushi 鉱山(銅・銀)、Kulu 廃さい採掘鉱山(銅)、Kinsevere 鉱山(銅・コバルト))などの交渉は2009年以降に妥結している。

④現政権のスタンス

2012年2月のMining Indaba 2012においてKabwelulu 鉱業大臣からは、国内の一部地域(東部)における紛争が鉱業に悪影響を与えていること、同国政府としては、鉱物資源の生産を不安定にする武装集団の存在に憤慨していること、米国証券取引委員会の規制(米国金融規制改革法(Dodd-Frank 法))及びICGLR(The International Conference on the Great Lakes Region)によるイニシアティブは、DRC コンゴでより安全なサプライチェーンの構築を支援するものであるとの見解を述べ、紛争鉱物の取引に関する問題に関して、DRC コンゴ政府は透明性を持って、国際社会の基準を満たすよう努めていきたい旨を宣言した。また、鉱業ライセンスの凍結を行わざるを得なかった背景を説明するとともに

に、鉱物資源の付加価値化の達成のためには外国鉱山会社の投資を歓迎する旨を表明した。

2012 年 3 月、Kabwelulu 鉱山大臣は、現鉱業法(2002 年)の下では鉱業が政府に十分な歳入をもたらしていないことから、鉱業税の引上げ及び鉱業プロジェクトにおける政府の最低権益比率の拡大を目的とした鉱業法の改正を目指しており、改定案を次期国会に提出予定である旨に言及した。

(2) Katanga 州による鉱石等の輸出禁止措置

- ・ 2007 年 3 月～2009 年 2 月、銅、コバルト鉱山地帯である同国北東部の Katanga 州政府は、銅、コバルト鉱石の輸出禁止措置を導入した(2007 年後半までは一時中断)。これにより、DRC コンゴからの鉱石をザンビアで処理している Metorex 社(南ア)、First Quantum Minerals 社(加)等の鉱山の生産に影響を及ぼした。
- ・ 2010 年 4 月、Kabwelulu 鉱業大臣は Katanga 州政府に対し、州内の銅精鉱やコバルト精鉱の付加価値化を促進するだけでなく、雇用と歳入を増加させ、各鉱山会社が州内に冶金プラントを含めた製錬施設を設置することになるよう、精鉱の輸出禁止を指示した。
- ・ 2010 年 9 月、大統領は、反政府武装組織や民兵による生産元が不明な「紛争鉱物 (Conflict Minerals)」の密輸を阻止するために、同国北東部 (Kivu 州北部及び南部、Maniema 州)からの金、錫、コルタン(タンタル鉱石)等の鉱物の輸送を一時停止するよう命じた。
- ・ 2011 年 3 月、大統領による鉱物の輸送停止措置を解除した。鉱業大臣によると、「禁輸令によって、鉱物の生産経路を明確にするためにも、公務員が当地に駐屯し、密輸を行う民兵に対する警備に成功した」と発言した。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要金属鉱石生産量

表 1-1. 金属鉱石生産量

鉱種	2009 年	2010 年	2011 年	対前年増減比 (%)
銅(千 t)	299.3	374.1	440.3	17.7
亜鉛(千 t)	9.8	4.6	9.5	106.5
金(t)	0.2	0.2	0.1	-50
銀(t)	-	-	-	-
コバルト(千 t)	29	-	-	-
ニオブ(t)	170	-	-	-
タンタル(t)	130	-	-	-
タングステン(t)	360	-	-	-
錫(千 t)	9.0	7.2	4.8	-33.3

(出典: World Metal Statistics Yearbook 2012 他)

(2) 主要金属地金生産量

表 1-2. 金属地金生産量

鉱種	2009 年	2010 年	2011 年	対前年増減比 (%)
銅(千 t)	141.1	222.5	249.6	12.2
銅(SX-EW)(千 t)	141.1	222.5	251.2	12.9
コバルト(t)	2,950	4,182	3,083	-26.3

(出典: World Metal Statistics Yearbook 2012)

(3) 主要金属消費量

データなし

(4) 主要金属輸出力

データなし。DRC コンゴ国内には金属を消費する産業が存在しないため、鉱産物(銅については国内で精錬される量を除き)、地金はすべて輸出されているものと思われる。

(5) 主要金属輸入量

データなし

4. 鉱山・製錬所状況

表 2-1. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業(権益：%)	鉱種	生産量 (千 t)	備考
Big Hill Tailing	OM Group(55)、George Forrest International(25)、 DRC コンゴ政府(20)	コバルト	4.8	生産量：2010 年 (推計値:2011 年データなし)
Etoile	Chemaf SPRL (100)	銅 コバルト	15.8 2.7	生産量：2010 年
Frontier	Fortune Holdings(70)、 DRC コンゴ政府(Sodimico) (30)	銅	47.5	生産量：2010 年 ・2012 年 1 月、前権益所有企業 First Quantum Minerals 社との間で訴訟等の問題が起きていたが、権益譲渡が成立。
Kalumines	Teal Exploration and Mining(60)、 DRC コンゴ政府(Gecamines) (40)	銅	6.1	生産量：2008 年 ・2012 年末まで鉱区再評価 FS 中。
Kamoto JV	Katanga Mining(75)、 DRC コンゴ政府(Gecamines) (25)	銅 コバルト	91.1 2.4	生産量：2011 年
Kinsevere	Minmetals Resources(95)、 Mining Corporation of Katanga (5)	銅	37.0	生産量：2011 年 ・2009 年 1 月、鉱業ライセンス見直し交渉妥結。 ・2012 年 3 月、Anvil Mining から Minmetals Resources へ権益譲渡完了。
Luita	Central African and Exploration(70)、 DRC コンゴ政府(Gecamines) (30)	銅(SX-EW) コバルト	5.0 -	生産量：2010 年 (推計値:2011 年データなし)
Mukondo Mountain	Central African and Exploration(35)、 Prairie International(35)、 DRC コンゴ政府(Gecamines) (30)	コバルト	3.2	生産量：2010 年 (推計値:2011 年データなし) ・2008 年 3 月、鉱業ライセンス見直し交渉妥結。
Mutoshi	Minmetals Resources(70)、 DRC コンゴ政府(Gecamines) (30)	銅	7.4	生産量：2008 年 ・生産方法再評価中。
Ruashi-Etoile	Metorex(75)、 DRC コンゴ政府(Gecamines) (25)	銅(SX-EW) コバルト	26.0 2.8	生産量：2011 年(1-9 月末) ・2009 年 2 月、鉱業ライセンス見直し交渉妥結。
Tenke Fungurume	Freeport-McMoran Copper and Gold Inc(56)、Lundin Mining Corp(24)、 DRC コンゴ政府(Gecamines) (20)	銅 コバルト	127.5 11.3	生産量：2011 年 ・2010 年 10 月、政府とのライセンス交渉妥結。

(出典：MEG)

(注) 現在、DRC コンゴには国営鉱山会社が以下の 6 社存在する。Miba 社は 80%政府・20%民間所有(ベルギー資本)であるが、他は 100%政府資本であり、会社ごとに鉱種、活動地域の棲み分けがなされている。それぞれの会社は、参加に個別の鉱山企業・プロジェクトを抱えるホールディングカンパニーであり、傘下の鉱山、プロジェクトは、外国企業との JV の形式をとっているものも多い。最大のものは、国内最大の産銅・コバルト地域である Katanga 州を本拠地とする Gecamines 社である。

- ① Gecamines : Katanga 州中心。銅・コバルト、亜鉛、錫、ウラン
- ② Miba : 東西カサイ州中心。ダイヤモンド、クロム、ニッケル
- ③ Sakima : 南北キブ州中心。錫、タンタル、タングステン、金
- ④ Okimo : 北東部オリエンタル州中心。金、銀
- ⑤ Sodimico : Katanga 州中心。銅・コバルト
- ⑥ Kisenge Manganese : Katanga 州西部中心。マンガン

表 2-2. 製錬所一覧

製錬所名	権益所有企業(権益 : %)	鉱種	生産量 (千 t)	備考
Gecamines 銅・コバルト 製錬所	Gecamines (100%)	銅 コバルト	28.5 1.8	生産量 : 2010 年
Luilu 銅・コバルト 製錬所	Katanga Mining (100%)	銅 コバルト	91.1 2.4	生産量 : 2011 年
Luita 銅 (SX-EW) 製錬所	Central African Mining & Exploration (100%)	銅	5.0	生産量 : 2010 年 (推計値:2011 年データなし)
Etoile 銅製錬所	Chemaf (100%)	銅	15.8	生産量 : 2010 年
Tenke Fungurume (SX-EW) 製錬所	Freeport-McMoran Copper and Gold Inc (56)、Lundin Mining Corp (24)、DRC コンゴ政府 (Gecamines) (20)	銅	131.5	生産量 : 2011 年

(出典 : 各社 HP)

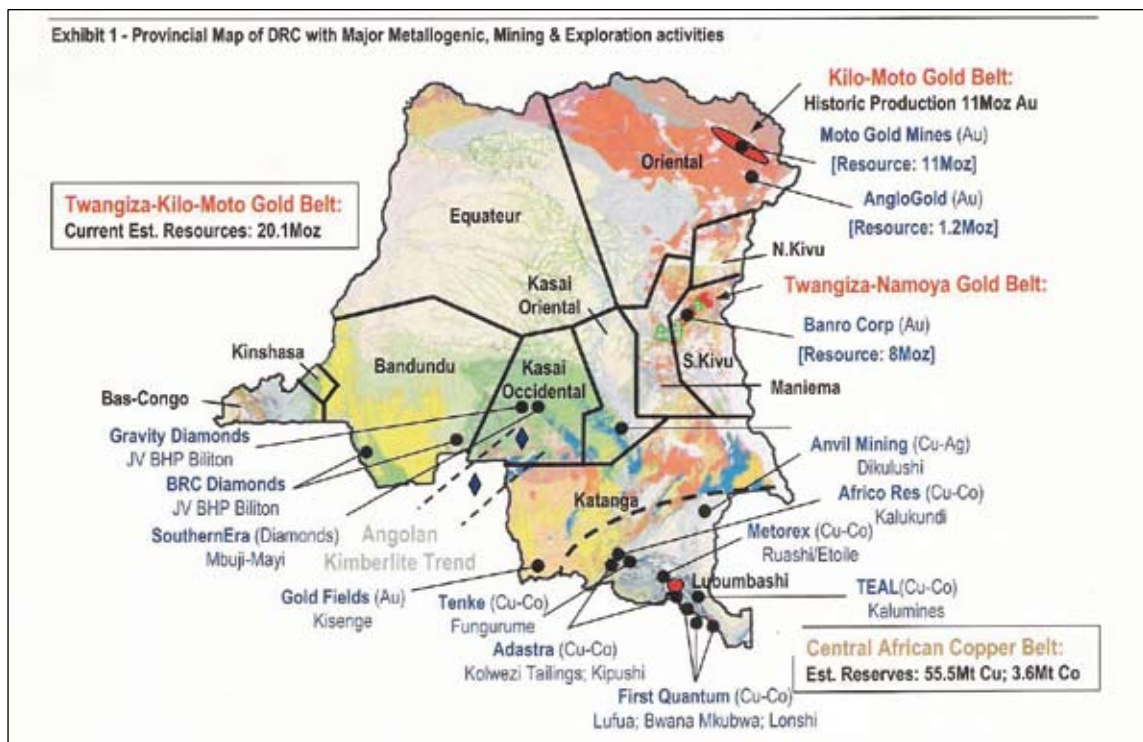


図 1. 主要鉱山、探鉱プロジェクト位置図
(出典 : Mining Registry)

5. 探鉱状況

(1) 開発・建設段階(鉱種、プロジェクト名、オペレーター)

銅、Kolowezi Tailings、ENRC
 銅、Dikulushi、Mawson West
 銅、Nova、Nova Mining
 銅、Kipoi、Tiger Resources
 コバルト、KOV、Katanga Mining

(2) 詳細 FS 段階(鉱種、プロジェクト名、オペレーター)

銅、Congo Mines and Infrastructure Construction、China Railway Engineering
 銅、Deziwa、Copperbelt Minerals
 銅、Dilala East、Metorex
 銅、Kapulo、Mawson West
 銅、Miniere Musoshi Kinsenda、Metorex
 金、Kibai、Moto Goldmines (Rndgold Resources)

(3) 鉱床評価段階(鉱種、プロジェクト名、オペレーター)

銅、Kakanda、Greenock Resources
 銅、Kananga、Katanga Mining
 銅、Kisanfu、Freeport-McMoRan Copper and Gold
 銅、Ecaille C、Copperbelt Minerals
 コバルト、Pumpi、Managem
 金、Namoya、Banro
 金、Zani Kodo、Mwana Africa
 金、Somituri、Kilo Goldmines

(4) 鉱床規模の把握段階(鉱種、プロジェクト名、オペレーター)

銅、Semkhat、Mwana Africa
 鉄、Bomokandi、Rio Tinto
 鉄、Isiro、Rio Tinto
 金、Ngayu、Loncor Resources
 金、North Kivu、Loncor Resources

(5) その他、最近の個別の探鉱・開発、企業買収等の動向

- ・ 2011 年 2 月、ダイヤモンド探鉱企業である BRC Diamondcore 社(本社：加・トロント、TSX & JSE 上場)は、DRC コンゴ北東部 Orientale 地方の同社探鉱区において、Rio Tinto と鉄鉱石探鉱における JV 契約を締結したと発表した。2011 年内に Rio Tinto は、同鉱区での探鉱・評価プロジェクトに着手予定である。本 JV の権益 70%は Rio Tinto(オペレーター)。
- ・ 2011 年 6 月、Ivanplats 社は、Kamoa 銅・コバルトプロジェクトに関して、探鉱ライセンスから採掘ライセンスへの切り替えを申請した。
- ・ 2011 年 9 月、DRC コンゴの Ruashi 銅鉱山(権益 75%)で生産を行っているほか、探鉱案件を有している Metorex 社は、中国金川集団(Jinchuan)から提示された一株当たり 8.90 ランド(総額約 12.8 億 US\$)という買収オファーを承認した。

- ・ 2011 年 9 月、Gecamines は、銅及びコバルト生産メジャーとして再浮上するべく、9.3 億 US\$ (約 710 億円) を投資し、銅の年生産量を 2016 年には 10 万 t、10 年以内に 15~16 万 t まで増加させる計画で、その投資資金を捻出するため、既存の 30 件程の JV について外部監査法人に委託して監査を実施する予定と表明した。
- ・ 2011 年 9 月、China Minmetals Corp. 傘下の五鉱資源有限公司 (Minmetal Resources Ltd.) は、Anvil Mining Ltd. を買収し、カタンガ州 Kinsevere 銅鉱山、Mutoshi 銅鉱山等の権益を獲得した。
- ・ 2011 年 12 月、Bancro 社は、Twangiza 金鉱山から生産を開始し、2012 年の生産量は 12 万 oz の予定と発表。
- ・ 2012 年 1 月、ENRC 社が FQM 社に総額 12.5 億 US\$ を支払う代わりに、FQM 社は Kolwezi 銅プロジェクトに加えて Frontier 銅鉱山及び Lonshi 銅鉱山を含む DRC コンゴ国内における同社の全てのプロジェクトを ENRC 社に譲渡することで合意した (同年 3 月には手続きが終了済み)。
- ・ 2012 年 2 月、中国水利水電建設集団公司 (Sinohydro) は、DRC コンゴ・カタンガ州の Kasombo 鉱山において、精鉱量 10,000 t/月の生産能力を有する銅・コバルト選鉱プラントの建設を開始し、操業開始は 2012 年 12 月の予定。
- ・ 2012 年 2 月、中国有色鉱業集団の傘下企業、中色華鑫湿法製錬有限公司が投資建設していた湿式銅製錬場が竣工し、年産 1 万 t の銅カソード、2 千 t のコバルト塩、4 万 t の硫酸を製造予定。
- ・ 2012 年 2 月、Gecamines は銅生産拡大に必要な投資資金 631 百万 US\$ を調達するため、南部アフリカ開発銀行 (DBSA : Development Bank of Southern Africa) 及びフランス開発庁 (AFD : Agence Française de Développement) と協議を行っている模様である。
- ・ 2012 年 4 月、AngloGold Ashanti 社は Mongbwalu 鉱山 (同社 86%、政府系 14%) において本格的な金の生産設備の建設を開始し、2013 年末までに生産開始予定である。
- ・ 2012 年 5 月、Exxaro Resources 社が間接保有する Mayoko 鉄鉱石プロジェクトは、当初予定 (2014 年) よりも早まり 2012 年 7 月から 2~5 百万 t/年の鉄鉱石の生産を開始し、2018 年までに 10 百万 t/年にまで生産を拡大予定。

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

日本への精鉱及び地金輸出量

鉱種	2009 年	2010 年	2011 年	対前年増減比 (%)
銅地金 (t)	994.9	-	-	-
コバルト地金 (t)	-	5.2	8.0	53.8%

(出典：財務省貿易統計データ)

(2) 日本企業による投資状況等

特になし

7. その他トピックス

2011年11月、国連安全保障理事会はDRCコンゴに対する従来の制裁措置を2012年11月まで延長する決定を行った。日本政府も国連安保理決議第1596号に基づき、引き続き武器禁輸措置に違反した者 (現在、32の個人及び団体) に対して資産凍結等の措置を講じている。

(2012. 5. 23 ロンドン事務所 萩原崇弘)